

市教研書写部会 6月授業研究

第4学年 国語科書写学習指導案

市教研統一研究主題

自ら学び心豊かに生きる力を身につけた児童生徒の育成

平成25年度 書写部会 研究主題

一人一人が主体的に取り組む書写学習のあり方

【仮説 1】 課題のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題をもち、自分の文字について振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

【仮説 2】 支援の工夫

児童・生徒一人一人が自分の力で解決できるような支援の工夫をすれば、学習意欲が喚起され、主体的に取り組むであろう。

【仮説 3】 評価方法の工夫

学習のねらいや実態に応じた評価の規準を明確にすれば、児童・生徒は文字感覚が豊かになり、日常の書写学習に生かすことができるだろう。

図書授業日時	平成25年6月18日(火)
授業者	長谷川恵美
授業展開場所	4年3組教室
協議会会場	図書室

第4学年3組 国語科書写指導案

千葉市立幕張西小学校

長谷川 恵美

1 単元名 点画のつき方『名作』

2 単元について

文字を書くときに、「点画のつき方」はどのような位置でつくかによって字形の良しあしに影響を与えるものである。児童は、4年生になり「画と画との間」をそろえて書くと字形が整うことを学び、整った文字を書くことに興味・関心を持ちだしている。ここでは、「点画のつき方」に気をつけることでさらに整った文字が書けるようにしていきたい。

「点画のつき方」については、第2学年の硬筆学習で学んだ事項であるが、毛筆で大きく書くことで、硬筆では見えにくい点画のつき方の習熟を図ることができる。

「点画のつき方」の学習において主眼となるのは、点画が「ついているか、はなれているか」「どの位置についているか」という点である。『名』では「口」部分の五画めと六画めのつき方、『作』では二画め・四画め・五画めのつく位置に気をつけて書くことで、字形が整うことを理解させたい。

本学級には、普段のノートなどは筆圧が弱くて薄い文字を書く児童が多い。また、点画の意識も薄く、点画がつかなければならないところを離して書いて字形が整わない児童もみられる。

しかし、毛筆書写への興味・関心は思いのほか高く、筆で文字を書くのが楽しいとか、うまく書けたときに嬉しいと感じている児童もみられる。また、上手く書けないからとか難しいからという理由で嫌いと答えている児童もみられる。その一方、書写学習では、字形を意識して丁寧にきれいに書くようにしていると答えている児童も多い。これらの実態から、児童一人一人が自分にあった課題を持って学習に臨めば、主体的に学習に取り組めるのではないかと考えられる。

そのためには、自分の文字について振り返らせ、課題をもって練習に取り組むことが大切である。その振り返りの方法がつかめれば、文字を書こうとする意識も高まるであろう。そこで、振り返りの方法を次のように考えた。はじめに、教材文字の中で、つき方やつく位置に着目する部分に色分けして○をつけて、どこを見たらよいか明確にする。次に、試書と教材を比べて自己批評するようにし、つき方やつく位置をどのように気をつけると字形が整うのかを考えさせる。それから、分解文字を操作したり、穂先の動きをDVDで確認したりして理解を促していく。このような方法で振り返れば、自分の課題を持ち、主体的に学習に取り組んでいけるであろうと考える。

このようにして、毛筆書写で「点画のつき方」を学ぶことで、硬筆書写においてもつき方やつく位置を意識するようになり、書く力が養っていけるのではないかと考える。

3 児童の実態（男子17名 女子14名 合計31名）

関心・意欲

○ 書写学習が好きか。

好き 18人

・楽しい 6人 ・上手に書けたときに嬉しい 3人
・きれいに書ける 3人 ・書くのが好き 2人
・上手になるかもしれない ・めずらしい

嫌い 13人

・上手に書けない 8人 ・難しい 3人
・手が汚れる 2人 ・めんどう ・時間がかかる
・字を書くのが嫌い

○ 書写学習で気をつけていること

・丁寧にきれいに書く 14人 ・字形を整えて書く 4人
・手や周りを汚さずに 3人 ・墨の量 2人 ・筆をねかせずに 2人
・バランスを考えて 2人 ・はね、まがり、はらいに気をつけて
・始筆、終筆に気をつけて ・筆圧に気をつけて ・穂先をそろえて

知識・理解

○ 字形を整えるには、どのようにするとよいか。（既習事項「美」）

- ・書写用語を使って説明できる 11人
- ・書写用語は使えないが説明できる 20人

技能

○ 普段のノートの硬筆の文字

- ・筆圧が弱く、文字が薄い 10人
- ・点画がついていない 6人（目→ 木→ ）

○ 毛筆書写 「美」

- ・画と画の間に気をつけて書いている ◎ 2人
- 26人
- △ 3人

○ 毛筆書写 点画の筆使い

	○	△
・縦画、横画	22人	9人
・右はらい	1人	30人
・左はらい	16人	15人
・点	1人	30人

4 単元の目標

- 点画のつき方やつく位置に気をつけて、字形を整えて書こうとしている。
- 点画のつき方やつく位置の良しあしを考えている。
- 点画のつき方やつく位置に気をつけて、字形を整えて書いている。
- 他の文字や硬筆でも、点画のつき方やつく位置に気をつけて書こうとする意識をもっている。

5 指導計画(4時間扱い)

- 第一次 毛筆の学習……………3時間
- 『名』の点画のつき方やつく位置を理解し、字形を整えて書くことができる。 ……1時間
 - 『作』の点画のつく位置を理解し、字形を整えて書くことができる。 ……1時間
(本時)
 - 『名作』の点画のつき方やつく位置に気をつけて、字形を整えて書くことができる。…1時間
- 第二次 硬筆の学習……………1時間
- これまで学習した字形の整え方に気をつけて、硬筆で字形を整えて書くことができる。

6 本時の学習

(1) 目標

- ・ 『作』の点画のつく位置について理解することができる。(知識・理解 思考・判断)
- ・ 『作』の点画のつく位置に気をつけて、字形を整えて書くことができる。(技能)

(2) 本時の学習で検証する仮説

【仮説1】 課題のもたせ方の工夫

児童・生徒一人一人が自分にあった課題を持ち、自分の文字について振り返りの方法をつかめば、文字を書こうとする意識が高まるであろう。

① 書き込みのできる手本

教師用指導書DVD-ROMの「練習用紙のプリント」の原寸大教材文字に課題が書き込めるようにしたものを用意する。点画がどう接しているか、どのような位置についているかに着目するために、点画のついてる部分に○をつけるようにする。つき方に着目する部分は青で、つく位置に着目する部分は赤で○をつける。見る部分が絞られることで、どのようなつき方になっているか、どの位置についているかを考えやすくなるであろう。

そして、前時に書いた試書と比べながら自己批評をすれば、課題を持つことができるであろう。

② 拡大点画 『 』 『 』 『 』

点画のつく位置がはっきりとわかるように、墨と朱墨を使って点画の部分のみを書いた提示物である。朱墨で書くことで視覚的に訴えることができ、自己批評をするときに効果的であろう。

③ 分解文字の操作と穂先の動きの確認

つき方やつく位置を理解するのに、分解文字を使うと効果的であろう。代表児童が一画一画を順番に組み立てながら、点画のつき方やつく位置を全員で確認していく。このとき、操作を容易にするために、「名」は1画めのはらい、「作」は1画めと3画めのはらいが印刷された用紙を用いる。

また、穂先の動きを動画で確認することで、点画のつき方やつく位置についてより理解が深まるであろう。練習中も確認できるように繰り返し動画を流す。

④ 二人組での話し合い

隣同士でお互いの課題について話し合い意見を交わすことで、自分の課題がより明確になり意欲的に練習に取り組めるであろう。課題がもてない児童も友達のアドバイスを聞くことで自分にあった課題がもてるであろう。

⑤ 教材・教具の工夫

自分の課題にあった練習用紙や練習方法を選択して練習すれば、主体的に取り組めるであろうと考えて、3種類の練習用紙と朱墨コーナーを用意する。

〈練習用紙〉

- ① つりの部分の部分練習用紙
- ② 点画がわかるかご文字練習用紙
- ③ 始筆の位置がわかる骨文字練習用紙

〈朱墨コーナー〉

薄墨の先に朱墨をつけた筆で書くコーナーである。穂先の通り道や筆使いを確かめたいときに効果的である。

(3) 展開(2/4)

学習活動と内容	教師の支援と評価	教材・教具
<p>1 前時の学習を想起させ、本時は『作』の点画のつく位置に気をつけて、字形を整えて書く学習であることを確認する。</p>	<p>・本時の課題に気づくような資料を提示する。</p>	<p>前時の学習をまとめた掲示物 点画のつく位置を意図的に書いた作品</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">『作』の点画のつく位置に気をつけて、字形を整えて書こう。</div>		
<p>2 話し合いながら基準を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・二画め、四画めのつく位置は、「はらい」の中心よりやや下方。 ・五画めは四画めの中心より左につく。 </div> <p>・分解文字『作』を操作する。</p> <p>・穂先の動きを動画で見る。</p>	<p>・手本の『作』の画と画のついている部分に赤で○をつけて、どのようなつき方になっているか考えるように促す。</p> <p>・拡大点画を提示し、基準の理解を図る。</p> <p>・前時の試書と見比べて自己批評するように促す。</p> <p>・点画のつく位置に気をつけて書くことと文字が整うことを助言し、分解文字『作』を操作して理解を図る。</p> <p>・穂先の通り道や筆使いを確かめながら見るように助言する。</p>	<p>拡大手本(黒板) 書き込みのできる手本(児童用)</p> <p>拡大点画 『 』 『 』 『 』</p> <p>前時の試書</p> <p>分解文字『作』 一画めと三画めのはらいが入った用紙</p> <p>大型テレビ パソコン 指導用DVD</p>
<p>3 自分の課題を決めて、手本に書く。 ・二人組で互いの課題を確認する。</p>	<p>・気をつけることを具体的に書くように助言する。</p> <p>・課題が決まらない児童には、アド</p>	

<p>4 練習する。 〈練習用紙〉</p> <p>① つくりの部分の部分練習用紙 ② 点画がわかるかご文字練習用紙 ③ 始筆の位置がわかる骨文字練習用紙</p> <p>〈朱墨コーナー〉 薄墨の先に朱墨をつけた筆で練習するコーナー</p> <p>5 『作』をまとめ書きし、試書と比べる</p> <p>6 練習の成果を認め合う。 ・練習の成果や努力した点を発表する。</p> <p>7 次時の学習を確認する。</p>	<p>バイスをしてあげるように促す。</p> <p>・自分の課題にあった練習方法を選んで練習するように助言する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価 点画のつく位置について、練習を通して理解を深めている。</p> </div> <p>・自分の課題を確認し、姿勢に気をつけて書くように助言する。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>評価 点画の位置に気をつけて、字形を整えて書いている。</p> </div> <p>・努力していた児童や練習成果の著しい児童の作品をとりあげて称賛する。</p> <p>・点画のつき方やつく位置に気をつけて『名作』と書くことを伝える。</p>	<p>練習用紙①②③</p> <p>薄墨・朱墨等 朱墨の手本</p>
---	--	---

